

お願い 会員・未会員を問わず、避難している方にも全員に配布して下さい

福島県腎協 機関紙号外

福島県の透析患者の皆さんへ5

未だに続く震度6の余震

4月11日、12日にいわき市を中心に震度6の余震が続きました。再開間近の大規模なクリニックも配管の問題が発生して、再開が早くても来週に延期となったようです。

過去最大の地震ということで、余震も未だに震度6が襲ってきます。人間の力ではいかんともしがたい天災の脅威、そして人間の作り上げたものの儚さを感じざるを得ません。

皆さんは、自分の身体は自分で守る意識を持ってもう少し我慢していきましょう。きっと平穏な日々が戻ってくることを信じて。

医師、看護師、スタッフの皆さんの覚悟、そして私達の想い

4月11日の余震の際(午後5時15分ごろ)、私は透析に入る直前で透析室でうろうろしていました。そこに郡山には震度5強の余震発生。私の29年の透析生活でも初めての大きな地震で、本当は心は驚天動地(シャレではないよ)。ベッドから立ち上がる人あり、声を出す人ありで結構緊迫しました。

その中で、看護師さんたちは落ち着いて、機械とベッドを支え「大丈夫ですから」とすでに透析に入った患者に声をかけていました。

スタッフには若い人からそうでない人まで様々おられましたが、一様に落ち着いて患者を守ることに専念していました。自分のことより患者のことを真っ先に守ろうとする姿に感心いたしました。

彼らは、「白衣」を身につけると同時に、「覚悟」を身にまとうのだなと思いました。普段は普通の人であり、女性であり、男性であるはずです。地震が来れば、テーブルの下に隠れたり、外に避難したり大騒ぎをすることでしょう。

しかし、ここ病院、透析室の一員になった時(白衣を身につけた瞬間)から医療者と

なり、心には「覚悟」を身につけ、その信念を持って看護に一身を捧げているのです。

私達はこの様な医療者の崇高な精神のもとに守られて、生命をつなぐ透析を行っています。日頃、透析は医療と患者と制度が相まって成り立っていると言っている私たちにできることもあるはずです。それは、透析室の覚悟あるスタッフの指示に従って、勝手に騒がず、勝手に判断せず行動することではないでしょうか。そのことが、地震の災害から身を守り、スタッフが最大限その覚悟を、その信念を発揮できる状況を支えることが出来るものだと思います。

私達も透析に入っている時は、その程度の覚悟を身につけて過ごしましょう。少なくともこの緊急事態の間は。

いわき市短信

昨日ネットを見ていたら、塩谷崎では灯台と美空ひばりの記念碑は、奇跡的にもがれきの中で健在だと載っていました。碑の前に立つと「髪の乱れに」が流れるそうです。また、波立海岸では、あの初日の出で有名な鳥居が健在のようです。自然の脅威の中で残っているものもあることに感心するとともに、早く行ってみたいといわきに心を馳せていました。

今は「頑張ろう」とは言わないよ

すでに震災から1ヶ月以上が過ぎて、避難生活をしている方も限界に近付いているのではないのでしょうか。避難地区に戻っていく人たちもたくさん見受けられるようです。

ですから、もう「頑張ろう」とは言いません。目一杯頑張っただけで今日まで過ごしてきました。これ以上何を頑張れと言うのでしょうか。「がんばろう日本、がんばろう福島」というスローガンが何処かしこに貼り付けられています。原発が収束して、がんばれば次に進める事態になった時、その時こそ私達もがんばる番です。福島の皆さんは未だ現在進行形の災害にさらされているのが現実です。

がんばらなくてもいいですから、日々変化していく状況を「冷静に、しかし過大にならず侮ることなく」判断して行動していくことが必要です。今はそういう時期です。我慢しすぎない、頑張り過ぎない、冷静な行動を心がけましょう。

福島県腎協では

福島県腎協では24日に運営員会を開催して、総会中止(文書による総会)、大会中止(長期透析表彰、記念品などは送付する)、東北ブロック交流会中止を検討することになっています。ですから会員の皆さんとをつなぐこの機関紙は出来るだけ毎週発行して、会員、患者の皆様とともに進んでいく福島県腎協であり続けたいと考えています。皆さまのご協力を宜しくお願いします。